

「新しい生活様式」とWebを利用したJACRの今後の活動



猿木 信裕 JACR理事長

群馬県衛生環境研究所

2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は一変してしまいました。2020年の流行語大賞は「三密」に決まりました。私たちは「三密」を避け、「新しい生活様式」を実践し、感染リスクの高まる「5つの場面」に気をつけることが求められています。JACRも対応しなくてはなりません。

1) 学術集会のWeb開催

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの学会が中止や延期、あるいはWeb開催を余儀なくされ、第29回学術集会栃木大会(大木いずみ会長)も、JACR初のWeb開催となりました。6月4日の学術集会初日から6月14日まで、オンデマンド配信により視聴・閲覧が可能だったので、学術集会終了後も勤務先や自宅でゆっくり視聴できたことと思います。大木会長のご尽力と皆様のご協力のお陰で、学術集会は成功裏に終わることができました。参加いただいた皆様、開催にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、延期されたオリンピック・パラリンピックの開催も不透明な中、2021年の第30回学術集会東京大会もWeb開催で行うことになりました。栃木大会は試行錯誤の連続でしたが、東京大会会長の都立駒込病院の田淵健先生が開催に向けて準備してくれています。栃木大会や他の学会を参考にWebの利点を活かし、有意義な学術集会になることを期待しています。会員の皆様の積極的な演題登録および参加をお願いいたします。

2) Web併用による安全管理措置外部監査事業

JACRが国立がん研究センターから委託を受けて実施している都道府県がん登録室外部監査事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、現地訪問による外部監査の実施が困難となってしまいました。今年度は10府県の監査を予定しておりましたが、Web併用によるオンライン監査により、外部監査事業も順調に進んでいます。

3) 法改正ワーキンググループ(WG)の設置

がん登録推進法は2016年1月に施行されました。施行5年後の見直し規定を受け、現在、法改正に向けて議論が進んでいます。JACRは厚生科学審議会がん登録部会において参考人として意見を求められたことから、急速「法改正WG」を設置し、がん登録部会における説明資料を作成しました。部会で使用した説明資料は厚労省のHPに掲載されているのでご覧ください(https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_208254.html)。

このWGではWebEx meetingを利用することにより、WGメンバーの活発な議論を経て、JACRとしての意見集約をすることができました。参考人としてJACRのWGで作成した資料を元に全国がん登録、院内がん登録の現状と課題について説明することができ、がん登録部会の委員の皆様との情報共有も進んだと思います。

「がん登録等の推進に関する法律」第1条の目的を実現するために、パブコメによる意見募集の際は、医療者、研究者、実務者、患者さん、行政等、それぞれの立場から積極的にご意見をお寄せいただきたいと思ひます。

4) JACRの今後の活動

JACRとして、日本のがん対策に貢献するデータ基盤としての全国がん登録、都道府県がん登録、院内がん登録の成功に向け、努力して行きたいと思ひます。

ネット環境の進歩には目を見張るものがあり、今後は、会員の皆様に役立つオンライン研修会の実施、Web配信のコンテンツの充実、情報提供の充実を図り、皆様と協力して、この試練を乗り越えて行きたいと思ひますので、ご支援よろしくお願ひいたします。

新型コロナウイルス感染症が収束し、一日も早く以前のよな日常生活が戻るよう願ひしています。



常時
受付中

当会への寄付

活動を支援して下さる方を募集します